

事業実施報告書

事業実施者名 : Study Japanese in Arlington (SJA)

1. 事業名

ジャパンディ

2. 実施日時

2019年3月31日11時から3時まで

3. 主催・共催等実施

[Study Japanese in Arlington \(SJA\)](#)

イベントは、[Arlington Career Center](#) (ACC、アーリントン高等専門学校) 及び [Arlington Public School](#) (APS、アーリントン公立学校) との共催。協賛日本企業も多く、JR東海、NEC、JAXA、JTBがブースを出展。またカルピコ、カルビー、森永より商品の寄付があった。またアーリントン郡が運営しているWalk Arlingtonは、ジャパンディに合わせてアーリントンの[花見ウォークマップ](#)を作成。協力のあった企業、団体の詳細は添付1のサポーターリストを参照。

4. 開催地・会場

Arlington Career Center (ACC)
816 S. Walter Reed Drive, Arlington, VA 22204

5. 事業目的及び内容

(1) 目的

アーリントンそしてDC周辺地域における日本経済及び日本文化振興を目指す。また、ACCと世田谷都立園芸高校の姉妹校提携を応援する。

(2) 内容

ACCが昨年11月の姉妹校提携を記念して日米にゆかりのある植物を集めた友好庭園の発表から始まり、地元の日本食レストランによるサンプルの提供、日本の伝統文化およびソフト文化を、パフォーマンスや体験ワークショップ、ブースなどで紹介した。パフォーマンスは沖縄太鼓、茶道、書道、けん玉、折り紙、アニメと神道に関するライブトーク、セーラームーンダンサーズなど。ワークショップはマンガ、折り紙、書道、けん玉、茶道、おにぎり作りを通じた食育など。また、日本企業や日本語を教えている地元大学、留学生の受け入れに積極的な日本の大学、日米交流団体など数多くのブースが出展され、浴衣を着て撮る写真ブースなどが人気を集めていた。プログラム及び参加団体の詳細は、添付2のプログラムを参照。

6. 実施状況

(1) 事業の広報手段

- アーリントンの公立学校のオンライン広報システム(ピーチジャー)で、小中高に在籍の生徒約28,500人の全家庭にジャパンディのチラシを配布(チラシは添付3を参照)。ACCの好意により、アーリントン公立学校のイベントとして広報された

- 公立図書館、参加レストランなどにチラシを掲示
- SJAのホームページ/フェイスブック/ツイッター/インスタグラムで広く広報
- SJAのメールリスト(330人程度)で、SJAの日本語受講者(中高生と大人)や日本人コミュニティに宣伝
- 日米協会やブース参加団体による宣伝
- 招待状(来賓向けに8通送付)

(2) 参加者数

693 名

うち502名はイベント事前登録者。191名は登録なしで当日参加。これに加えて、来賓、ブース出展者やボランティアなど、256名がイベントをサポート。総計949名がイベントを楽しんだ。残念ながらイベント開始直後の混雑のピークに、登録なしで来た20人ほどの入場を許可することができなかった。その方達が入場することができれば、参加者はほぼ1000人近くだった。

参加者の大半は子供がアーリントン公立学校に在籍している現地コミュニティのアメリカ人だった。またサポーターの7割程度が日本人、残り3割程度が高校生、大学生を含むアメリカ人で、日本に滞在経験がある、日本語を学んでいる、あるいは日本に興味のある方達だった。折り紙、茶道、けん玉、セーラームーンなどパフォーマー、マンガワークショップのファシリテーターなどもアメリカ人だった。

(3) アンケート結果

- イベント後グーグルのサーベイエンジンを使ったアンケートを送付し、82名から回答を得た。63%がイベント参加者(以降参加者)で、残りの37%はボランティアやブースファシリテーター(以降サポーターと総称)だった。参加者の56%が小学生の子供連れ、中高生は25%、19%は未就学児連れだった。回答したサポーターの43%は高校生、23%は小学生の子供連れだった。
- イベントの反響は非常によく、回答者全体(参加者とサポーター)の73%がイベントに非常に満足、24%が満足したと答えた。同54%が日本や日本文化への理解が非常に深まったと回答し、39%が少し深まったと答えた。特に参加者の間では、83%が将来同じようなイベントにぜひ参加したいと述べ、15%は時間があればと回答した(サポーターに限ってはそれぞれ70%と30%)。
- 複数回答でイベントで最も楽しかった活動を尋ねたところ、回答者全体の56%が沖縄エイサーが最も好きなステージパフォーマンスだったと答えた。参加者の間では、エイサーに続いて、折り紙(35%)、けん玉(33%)、書道(31%)が人気を集めた。サポーターの間では、けん玉(43%)と書道(40%)が好評で、アニメと神道トークと桜咲く音頭(それぞれ27%)も参加型であることが評価されたのか人気があった。また体験ワークショップでは、参加者の40%が折り紙、35%が書道、31%が茶道、23%が写真ブースを挙げた。サポーターの間では、書道とけん玉がそれぞれ37%と一番人気があり、続いて折り紙と写真ブース(それぞれ30%)が挙げられた。参加者の間での折り紙の人気の高さが伺えるが、体験するけん玉にはやや及び腰である様子だった。
- 日本食のサンプルは参加者の90%、サポーターの80%が最も好ましいブースと回答(サポーター向けには昼食が提供されたので、サンプルを食べなかった可能性大)。日米交流団体のブースと大学のブースが次に好ましいと評価された。参加者の間では日米交流団体(35%)が大学(25%)より好まれたが、サポーターの間では評価は同じだった。企業ブースは参加者全体の15%前後が評価しており、新幹線の模型を展示したJRブースが17%の支持を集め、JTB、NEC、JAXAのブースはそれぞれ13%だった。
- イベントを通じて、参加者の38%がSJAのユース日本語プログラムに興味を示し、23%が放課後の日本語・日本文化紹介のプログラム、12%がそれぞれ中学校あるいは高校で日本語を学ぶことに興味を持ったようである。大人については、13%が郡の生涯教育プログラムに、12%がSJAの大人の日本語プログラムに興味を示した。
- イベント参加者の42%はAPSによるピーチジャーからイベント情報を得、それぞれ8%がSJAのフェイスブックや日本語クラスで情報を得た。

(4) その他参加者コメント等

アンケートから

- 素晴らしい、心温まるイベントだ。会場の雰囲気もよく、食べ物も美味しかったし、様々なアクティビティがあった。コミュニティが集まれる良いイベントだ。ありがとう。来年もぜひやって欲しい。
- ジャパンディは大成功でした。おめでとうございます。細部まで綿密に計画されたイベントで、日本の素晴らしさについてよく紹介されていた。
- 日本の文化の祭典というのみではなく、地元の日本企業や日本関連のビジネス、団体や学校などを知る機会になった。このイベントでACCと園芸高校の姉妹校関係を目の当たりにして感動を覚えた。次世代に続くであろう友好関係に想いを馳せ、参加できたことを光栄に思った。このイベントをぜひ毎年行って欲しいし、全米さくら祭りの一部として認められると良いと思う。
- もっと年少の子供向けのアクティビティ、例えば日本の子供が遊ぶようなボードゲームや、子供たちの好きなアニメを字幕付きで見せるといったものがあると良かった。
- 15歳の息子と参加した。折り紙など体験型のワークショップは良かったが、情報の発信や伝達については検討の余地がある。もっとブースの方から積極的に話しかけて欲しかった。パネルを作るとか、もっとビジュアルに目を惹きつける工夫をした方が良い。その点は残念だったが、来年もぜひやって欲しい。もしやるのであればブースなど日本語や日本についての情報をもっと積極的に発信して欲しい。ステージのパフォーマンスについては、もう少し文化的な背景など説明があると良かった。また日本文化などの発表やデモンストレーションをブースなど会場中で行い、参加者の注意を引く工夫をすると良い。日本語クラブなどに展示・発表してもらいたいと思う。
- 屋台などでけん玉、日本の本、アニメ、お菓子、など販売するともっと活気があっていいのではないかな。
- もっと教室を使ってパフォーマンスやワークショップをすると混雑が避けられるのではないかな。
- ボランティアとして参加した方より。日本語を話せるのにブースでは英語で返答された。外人扱いはやめて欲しいし、外国人でも日本語を堪能に話せます。
- もっと参加できる人数を増やした方が良い。

会場やサポーターからのコメント

- 来賓の方から。こんな大きなイベントになるとは想像もつかなかった。素晴らしい。既存の日本イベントに比べ日本人ではない人の比率が高く、日本を紹介するいい機会になった。商工会のメンバーはなかなか週末のイベントに人員を出したがるらないが、これだけの規模の来場者があり盛り上がるイベントを見たら企業PRとして重い腰を上げるのではないかな。是非、報告したい。
- ACCの校長より。SJAとその他大勢のボランティアの力により、美しくかつ素晴らしいイベントが開催できた。ACCでは様々なイベントを開催するが、最もうまく運営されたイベントだった。アーリントンのコミュニティも日本の文化と言語の祭典を心から楽しんだと思う。また会場のスペースの利用の仕方がユニークで、全く違った空間のように思えた。
- パフォーマーの方から。とても素敵なイベントですね。おめでとうございます。日本人のアメリカでの存在意義はアメリカ人に日本文化を紹介することであり、お客さんが喜んでくれたのが一番嬉しい。
- ブース出展者の満足度は非常に高かった。例えば、JETは100人くらいの参加者にプログラムを紹介し、日米学生会議は大学生の会議という特化した団体にも関わらず、15人くらいがメールリストにサインアップした。バルティモア来た大学も日本語プログラムを宣伝するいい機会になったと喜んでいて。また、アメリカの大学紹介ブースに参加した学生は幼児から大人にまで日本語を学ぶ意義と楽しさを伝えることができ、日本語学習の意欲も高まった様子。

- 地元の日本関係のビジネス、パフォーマーやワークショップのファシリテーターの評判も良かった。マンガワークショップは1時間と短い時間だったにも関わらず100人くらいにアテンドし、日本風のクレープには常に人集りが出来ていた。茶道の方はカジュアルな形で一般の人に茶道を広めたかったので、良い機会になったと話していた。
- ボランティアしてくれたアメリカ人や高校生からも印象深く、非常に楽しいイベントだったというコメントがあった。ボランティアの日本人の方も大成功だったと声を掛けてくれた。
- 日本人の参加者は、小さな子供のいる家族にも参加しやすく、アメリカで今まで行った日本イベントの中で最高だったと話してくれた。
- SJA、大学などがそれぞれの宣伝も兼ねて、教室を使って交替で日本語を教えるプログラムを行っても良かった。
- 留学生の受け入れに積極的な日本の大学の情報ブースを担当した方は、参加者の反応の薄さを指摘。アメリカの大学と交流している日本の大学は国内屈指の大学であってもアメリカでの知名度は低く、また参加者には日本の大学に行くメリットが分からない様子だった。参加者の大半が小さな子供連れの家族だったので、あまり興味を持ってもらえなかった。

(5) メディア・SNSによる評価・反響等

- ACCの校長はイベントに1日中参加し、非常に好意的なツイートを何度も発信していた。
- インスタグラムでは、ブース参加者によるポストも。また参加者のこんなポストも。
- SJAのフェイスブックでもイベントの様子を紹介。
- メディア関係では西日本新聞がジャパンディを取材。またボードメンバーが、大阪のラジオ局の番組、DCのさくら新聞、長野市民新聞にてイベントの様子を報告あるいは投稿。
- APSもソーシャルメディアでイベントを紹介する予定。

7. 自己評価（評価できる点・改善点、成功の要因、工夫した点、留意した点及び苦勞した点等）

- APSのピーチジャーによるイベント告知が功を奏し、反響が大きかったため告知1週間後に登録制度に変更した。その後約2週間で登録者が600人に到達したため登録を締め切ったが、その後も問い合わせが続いた。当日の参加者のうち500名は登録者で、出席率は83%。通常イベントの出席率は7割程度であることから考えると、大成功だったと言える。
- ACCの消防法に基づく収容人数は1階が600人、2階が200人程度で、駐車場も含めて混雑が予想された。プロのイベントコーディネーターが当日登録なしで来た参加者の入場を上手にコントロールしたため、全体的に混雑することもなく、参加者は日本の文化や食をゆっくり楽しめたようだった。参加者の数と満足度の高さから、日本企業や文化を広く紹介するというイベントの目的は達成できた。
- ACCの生徒たちが開会式、日本食の提供、学校紹介のブースなど積極的に参加してくれた。姉妹校の園芸高校の生徒たちとも交流し、2校の関係を深める手助けができた。現在進行中のアーリントンと世田谷区の姉妹都市提携への前進にも貢献することができたと思う。
- イベントを通じて、日米のパフォーマーやワークショップのファシリテーターの間で横のつながりができたようだった。日本人とアメリカ人のコミュニティー、そして人と人をつなぐイベントになった。またブースに参加した大学と日米関係の団体をつなぐ機会にもなったようで、このイベントは日米人材を育成する種まきと、育成者の間のネットワークに貢献できたと思う。

- ワークショップは全般的に人気が高く、茶道など枠はすぐに満席に。写真ブースでは浴衣を着せるボランティアが不足した。折り紙はSJAが開催した折り紙講習会で習った英語で教える言葉など役に立ったようだ。
- 参加者の中で日米関係の団体のブースが大学や企業ブースより評価されていた点を真摯に受け止めるべきだと思う。アンケートのコメントの中にもっと積極的に話しかけて情報を発信するべきだとか、展示を工夫した方が良いというものがあった。また、日本の子供の遊びを体験したいという声もあり、等身大の日本への興味が伺えた。現地コミュニティは文化的背景の説明を含む、より積極的な交流を求めていることを日本人として胸に刻み、来年につなげるべきだ。
- 昨年5月にAPSの日本語プログラムの継続を訴えて立ち上がったSJA。9月にNPO法人格を取得し、SJAとして初めての大きなイベントを成功裏に終わらせることができた。発案・企画はボードメンバーの有志によるイベント委員会3名が、グラントの受領が決定した1月以降ボード外から募った有志を加え合計7名の日本人女性によるイベント運営委員会が企画・運営を行なった。半数以上がフルタイムで働いているため、深夜まで電子メールによる意見交換は深夜まで、ほぼ毎週末会合を重ね、また会社を休んで会場の下見や最終的な準備を行なった。有志がそれぞれ得意な分野やスキル、そして時間をイベントの企画・運営に貢献することによって可能だったジャパンディだが、イベント運営委員会、特にボードメンバー以外の参加者には多少の報酬をお出しし、より多くの人に助けてもらえらるともっと良かったのではないかと思う。

8. その他

- イベントの様子については、ジャパnbowlでの日本語教育関係者のセミナー、アーリントン外国語教育委員会、フェアファックスの日本語教育関係者との懇談会、そしてバージニア外国語教育の学会などで発表する予定。
- 全米桜祭りとの提携を模索したが、400ドルほどの登録料が派生することが判明。ピーチジャーなどによる宣伝が十分に行えたと判断したため、今回は見送った。
- イベントの写真は[こちら](#)を参照。またカフェテリアの様子などは[こちら](#)を参照。